

《担当者名》准教授 / 大澤 宜明

【概要】

ウイルスの増殖及びウイルス感染に対する生体防御機構を個体、臓器・組織、細胞、分子レベルで理解する。インフルエンザ、ヘルペス、肝炎、HIV感染症を中心に抗ウイルス化学療法の現状について理解し、将来を考える。

【学修目標】

- ・ in vitro及びin vivoにおけるウイルスの増殖機構、生体の応答について概説できる。
- ・ 主なウイルス感染症に対する化学療法について概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ウイルスの増殖1	ウイルス吸着蛋白とレセプターの相互作用を通じ、ウイルスの宿主域・組織指向性について説明できる。	大澤 宜明
2	ウイルスの増殖2	エンベロープウイルス糖タンパク質による膜融合機構、非エンベロープウイルスの細胞内侵入機構について説明できる。	大澤 宜明
3	ウイルスの増殖3	ボルテモア分類に基づき、ウイルスゲノムの複製機構について説明できる。	大澤 宜明
4	ウイルスの増殖4	レトロウイルスによる発がん機構を説明できる。	大澤 宜明
5	ウイルスの増殖5	DNAウイルスによる発がん機構を説明できる。	大澤 宜明
6	ウイルス感染と生体防御1	パターン認識受容体を主軸にウイルス感染に対する自然免疫について説明できる。	大澤 宜明
7	ウイルス感染と生体防御2	ウイルス感染に対する体液性免疫及び細胞性免疫について説明できる。	大澤 宜明
8	ウイルス感染と生体防御3	抗体によるウイルスの中和反応機構を説明できる。	大澤 宜明
9	ワクチン論1	抗原提示機構、アジュバントなどワクチンの基礎について説明できる。	大澤 宜明
10	ワクチン論2	ワクチン製造法について説明できる。	大澤 宜明
11	ウイルス感染症の疫学	インフルエンザの分子疫学を概説できる。	大澤 宜明
12	抗ウイルス薬1	抗インフルエンザ薬について説明できる。	大澤 宜明
13	抗ウイルス薬2	抗ヘルペス薬について説明できる。	大澤 宜明
14	抗ウイルス薬3	抗ウイルス性肝炎化学療法について説明できる。	大澤 宜明
15	抗ウイルス薬4	抗HIV薬について説明できる。	大澤 宜明

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度（30%）とレポートの評価（70%）により成績を評価する。

【教科書】

無し（プリント・プロジェクターを用いる）

【参考書】

授業内容に関連する論文・総説など

【学修の準備】

配布プリントについて予習、復習が必要である。